

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

3月に多くの船会社で、コンテナ1本当たり\$50から\$100のGRI（海上運賃一斉値上げ）が実施され海上運賃が値上げされました。4月以降も各船社GRI実施を予定していますが、新型コロナウイルスの影響で、通常に比べ貨物の流通量が減少していることから船腹の余剰を懸念しGRIのタイミングを図っている船会社も出てきております。今後の海上運賃の動向に注視が必要です。

米国西海岸全域では現在不要不急の外出が禁止されていますが、港湾ターミナルは、必要不可欠な産業に区分され引き続き稼働しています。しかしながら寄港する本船が減少しているためターミナルの営業時間が通常時よりも短縮されています。この影響で荷積みされたコンテナがターミナルへの搬入期日に間に合わず日本への入船が遅れるというケースが増えています。

コンテナ船の運航については、世界的景気の減退を受け各船社、サービスの調整を行っています。日本向けでは4月にPNWから出港する本船の減便が船社より発表されています。このため運航を続ける本船に貨物が集中しており、引き続き船腹は逼迫、予約も取りづらくなっている状況です。

ビートパルプ

【米国】

各製糖工場の作業は順次終了しており、4月下旬までに全工場で19年産の作業を終える見込みです。昨年は6月まで同作業が実施されていたことから、19年産は前年比で1ヶ月から2ヶ月早く工場での作業が終了していることとなります。

20年産の作付面積については、現時点では昨年並みから地域によっては増加が期待されています。アイダホ州やミシガン州では新穀の播種作業が既に開始されています。この先3週間、各ビートの生産地では良好な天候が期待されており各地で播種が始まる予定です。

アルファルファ

ワシントン州

主産地コロンビアベースンでのアルファルファの生育は順調に進んでいます。最近やや冷涼な日が続いているようですが、このまま順調に生育が続けばコロンビアベースンでは1番刈の収穫作業が5月上旬から中旬かけて開始されることが見込まれています。19年産産地在庫はほぼ成約済みで産地価格は堅調です。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは冬季の積雪が少なく生産には影響ないものの旱魃傾向にあります。アルファルファの作付面積については大きな増減なく昨年並みとなる見込みです。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3月上旬に20年産1番刈の収穫が始まっています。しかし収穫中、断続的な降雨があったため収穫作業に遅れが出ました。現在天候は回復しており多くの生産者で1番刈の終盤を迎えており4月中旬までにはベアリングが終了する見込みです。

各サプライヤーの情報によると1番刈全体の30%程度が降雨前に収穫できたものの、残りは雨当たりか刈遅れの品質となっており良品は限定的になる見込みです。このため上級品を求める中東、中国からの引き合いは弱く、産地相場は落ち着いています。

米国産チモシー

主産地であるコロンビアベースンおよびエレンズバーグでは強風の影響で新播の圃場において、表面の土壌とともに種子が風で吹き飛ばされる被害が出ています。20年産の作付面積は19年産取引価格が大きく下がったことで生産意欲は低く、他の換金作物への転作も見られており昨年比で減少する見込みです。生育については今年の冬が暖冬であったことから平年並みからやや早く進捗しています。19年産の産地での在庫状況は上級品について余剰はないようですが、下級品については供給余力があるようです。

スーダングラス

産地では3月に複数回降雨があったため、早播きスーダンの播種作業に遅れが出ており例年に比べて10~14日ほど遅いペースで作業が進んでいます。このため4月1日時点でのスーダンの作付面積は前年同期比66%、10,831エーカーとなっています。一方、産地ではスーダン種子の在庫は潤沢で種子価格も例年並みで推移していることから、今後の天候次第では20年産の作付面積は例年並みまで回復して来るものと見込ま

れています。多くのサプライヤーでは19年産スーダンの出荷は順調で、ほとんどキャリーオーバーがない状態で20年産の収穫を迎えます。



3月中旬撮影 播種を終えたスーダンの圃場

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

20年産クレイングラスについて、圃場への水入れが開始されています。生育は今のところ順調で、早ければ4月下旬から5月上旬に収穫が開始されます。19年産の出荷は順調で、一部低級品をのぞき在庫量も適正とのことで、20年産に向けて余剰在庫はあまり発生しない見込みです。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

日本、韓国からのペレニアルライグラスストローとフェスクストローの需要は引き続き堅調です。産地相場についても需要に牽引される形で堅調に推移しています。産地在庫はペレニアルライグラスストロー、フェスクストローともに成約済みで、追加の買付は難しくなっております。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ及び同州中部のクレモナでは19年産輸出向け品質のチモシー在庫は大半が成約済みです。日本及び韓国から安定した需要があり出荷も順調です。この出荷ペースが続くと19年産の在庫は各グレードとも余剰在庫なく20年産の収穫を迎えることになりそうです。

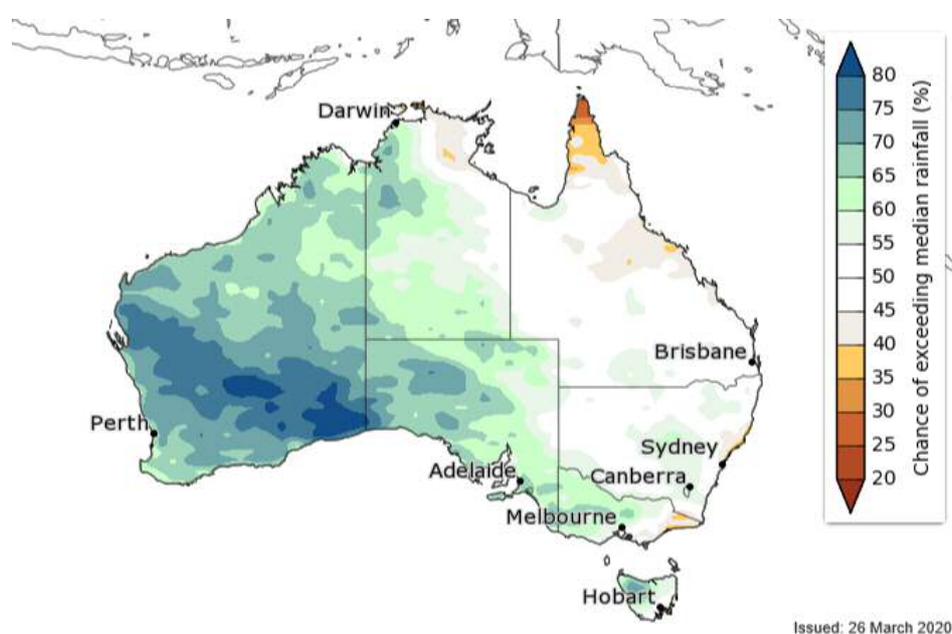
20年産の生産については、19年産の取引価格が下がったものの作付面積は大きく変わらない見込みです。クレモナでは天候リスクと人件費削減を目指し、集草作業が早いビッグバールマシンを導入する生産者が増えています。

豪州産オーツハイ/ウィートストロー

豪州でも3月にコロナウィルスに対する緊急事態宣言が出されています。農業分野は必要産業として区分されており各産地のサプライヤーでは工場を稼働させています。

コロナウィルスの影響を受け北米産のスケジュールが乱れていることから、一部北米産の需要が豪州産オーツハイ及びウィートストローへシフトしています。この影響で産地サプライヤーの製造能力を超過するオーダーが入っており直近の製造スケジュールは逼迫しています。

20年産の生産については2月以降断続的に降雨があり土壌水分量は増加しています。豪州気象局によると西豪州のこの先4-6月は例年の降雨量を超える確率が高いと予想されています。クロープに良い影響があることが期待される一方で播種後、すぐに大量の降雨があると種が流れてしまう危険性もあるため今後の状況に注視が必要です。



西豪州の広い範囲で4-6月は平均降雨量を超える見込み(豪州気象局 HP より引用)

豪州コンテナ船情勢

豪州航路でも北米同様、船会社はGRIを発表しています。船社によっては経済の鈍化を懸念し豪州航路でも中国向けを中心にサービスの減便を行っています。また豪州から日本への経由地として活用されているシンガポール港のコンテナヤードで混雑が発生しています。貨物が滞留し予定されていた内航船への積載ができずに日本への入船が遅れるというケースが発生しています。

以上